

ヴィヴィッシモ

Vivissimo 輝き!

第3号

2005

4~7月

奈良県男女共同参画情報誌

「いよいよ(イタリア語でVivissimo)輝いて男女共同参画を推進していく」という意味が込められています



- 特集 女性のチャレンジ支援
- 解説 育児・介護休業法の改正
- トピックス ファミリー・フレンドリー企業
- 奈良県女性センター4月~7月講座ご案内



はじめの第一歩を応援します

～女性のチャレンジ支援～

なぜ、今チャレンジ支援が必要なのか

今回は、仕事と家庭を両立しながら起業にチャレンジし、現在も講師として幅広く活躍されている佐野智世さんに女性のチャレンジ支援が、なぜ今必要となっているのかについて伺いました。

〈望まれる女性の活躍〉

少し前になるけれど、通勤途中に読んでいた2月のある日の朝刊には、働く女性に関するニュースが2件掲載されていた。○N自動車では、現在40名の女性管理職を2007年度末までに3倍の120名に増やし、管理職に占める女性の割合を1.6%から5%に高める予定(同企業の北米現地法人では20%) ○K鉄道では、太平洋戦争中と戦後まもなくの混乱期を除き、同社初の女性運転士を2名乗務させた、と。「なかなか女性もがんばってるやん」と手放して喜んでばかりはいられない。これが男性だったら当たり前で何のニュース性もないのだから。日本の女性は諸外国に比べ教育水準が高く、潜在的に大きな能力を持っているにもかかわらず、その能力がなかなか生かされていないのが、現状だ。例えば、全体の約4割を占める女性雇用者に対して管理職割合はたったの9.6%。アメリカの45.1%、カナダの35.1%とは比べものにならない。国家公務員の女性割合は2割だが、管理職はわずか1.4%だ(アメリカ23.1%、フランス19.3%)。男女共同参画社会実現のためには、男女が共にあらゆる分野に参画していくことが不可欠とされているし、少子高齢化が進展する中では、性別や年齢等にかかわらず男女がもてる能力を十分に発揮できる社会が望まれているのにこの状況なのだ。

〈再就職の難しさ〉

女性の就業者数そのものは増加し、女性が働くことを肯定的にとらえられてはいるが、結婚・出産を機に就業を一時中断する女性が奈良県には多く、その結果、勤続年数が短いことから管理的職業従事者の女性の割合が2.6%(全国3.1%)と低い。さらに子どもが小さいうちは家庭で育てたいと願う退職した者が、その後必ずしも自らの意欲や能力を活かした良好な再就職等の機会に恵まれてはいない(少子化社会対策大綱)。

民間企業で活躍の後、阪神大震災により休職及び育児休業取得。クレオ大塚北で講師活動を開始し、1996年に短期マーケティング研究所ケイ・ファクトリーを設立する。現在は、マーケティングプランナーとして、博物館等施設運営計画に携わる。また、運営スタッフのマニュアル作成、人材採用・育成、産業カウンセラー、キャリアコンサルタントとして小学生～大学生の職業意識啓発と就職支援、社会人の転職、主婦の再就職講座の講師を中心に活躍中。



佐野 智世さん

〈チャレンジする女性たちのための女性センター〉

結婚、子育て等で職場を離れ、長い時間を経た後に、新たにチャレンジしようとする女性が、「自分育て」に関するさまざまな情報を効率的に入手することが難しいという。企業、地域、家庭とそれぞれに活躍の場は違っても、「何かを始めたい!でもどうやって?」と迷っているあなた!「私にもなにかできるはず」とヤル気に目覚めたあなたの「はじめの第一歩」を応援するのが、今回のチャレンジ支援だ。チャレンジしたいと考える女性が必要とする情報を「いつでも、どこでも、だれでも」ほしい時に組織の垣根を越えて簡単に手に出来るようなシステムが奈良県でも導入される。奈良県女性センターを中心に平成17年度は(雇用・起業)(地域等社会活動)(育児・介護支援)の大きく3つの分野について総合的な情報提供の体制整備が実現し、支援される。再就職したい、キャリアアップしたい、地域活動がしたい、育児・介護で援助を受けたい女性たち一人一人のニーズに合ったチャレンジに対してサポートが受けられるというわけだ。また、何をしたらよいかわからない、自分に合うものがわかりにくい、どこからスタートしたらいいのかわからないといった相談にだって対応し、たくさんある窓口の中のどこに行けばいいのかについてもアドバイスを受けることが可能だ。新入園、新入学、新入社員…春は新しい生活へのスタートの季節でもある。この記事を読んだあなたも、まずは奈良県女性センターのホームページを訪ねることから始めてみてはどうだろう。望んでいた何かに出会えるかもしれないし、新しい自分を見つけられるかもしれないから。

県ではチャレンジをしようとする女性を支援するため、チャレンジを具体的にイメージができるよう「一事例集—私たちの再チャレンジ」を平成16年10月に発行しました。出産などでいったん退職をしたけれど子育てが一段落した後、再就職、起業・開業、地域活動などさまざまな分野に再チャレンジされた身近な女性の方々の事例を掲載しています。

(県男女共同参画課ホームページでも掲載しています <http://www.pref.nara.jp/danjo>)

さらに、県女性センターホームページに「チャレンジサイトなら」を開設し、女性を支援しています。



「チャレンジサイトなら」を開設します

URL: <http://www.pref.nara.jp/joseic/challenge/>

この「チャレンジサイトなら」では、再就職、キャリアアップ、起業などさまざまな分野でチャレンジしたい女性が、必要な情報を効率的に入手できるよう、各種支援機関に関する情報や実際に活躍されている女性の方々を紹介しています。ぜひご活用ください!!

4つのチャレンジテーマ

「働きたい」「もっと学びたい」「起業したい」「社会貢献したい」の4つにテーマ分類し、テーマごとの支援機関と支援内容を紹介します。

私たちのチャレンジ

NPO活動や企業などさまざまな分野で活躍中の、「チャレンジした女性」を紹介します。



困っていませんか?

仕事と家庭の両立のための情報や子どもを預けたい時のサポート、介護支援の情報などを紹介します。

サポート拠点リンク

女性のチャレンジを応援するための地域の拠点施設をご紹介します。

チャレンジ支援講座カレンダー

「チャレンジしたい女性」を応援する機関が行っている講座をご案内します。

「キャリアコンサルタントによる職業相談を始めます!」

女性の再チャレンジを支援するため、平成17年5月から、しごとセンター-移動職業相談を県女性センターで実施します。チャレンジアドバイザー(キャリアコンサルタント)が一人ひとりにあったアドバイスや情報提供をおこないますので、ご利用ください。

- ☆ 毎月第3火曜日(平成17年5月から) 10:00~18:00
- ☆ 予約制 面接相談
- ☆ 予約・問い合わせ先 県女性センター TEL 0742-27-2300